

病害虫発生予察特殊報 第1号

作物名：カーネーション
病名：カーネーションべと病
病原菌：*Peronospora dianthicola* Barthelet

1 発生確認経過

令和7年4月、東信地域のカーネーション栽培ほ場において、葉に輪郭が不明瞭な黄斑が発生し、生育不良となる障害が発生した。症状や病原体の特徴から、べと病が疑われたため、名古屋植物防疫所に同定を依頼したところ、*Peronospora dianthicola* Barthelet による病害であることが確認された。

本病は、海外においては、中国、イスラエル、トルコ、ギリシャ、イタリア、ポーランド、イギリス、デンマーク、フランス、スウェーデン、スイス、アメリカ、コロンビアからの報告がある（2022年11月現在）。

日本においては、2011年に北海道で発生が確認されている。本県での発生の確認は初めてである。

2 病徴及び被害

罹病株は、葉に輪郭が不明瞭な黄斑が生じ（図1）、生育不良となる。多湿環境下では、病斑上に白色～灰褐色の霜状のカビを生じる（図2）。また、病葉内には黄褐色の卵胞子を形成する（図3）。卵胞子は土中で越冬し、第一次伝染源となる。

生育初期から罹病した株は、節間が詰まり、草丈が伸びず、健全株と比較して著しく生育が悪くなる（図4）。

3 防除対策

- 無病苗を用いる。海外では本病が広く分布しているため、輸入苗を使用する際は注意する。
- 発病株は抜き取り、ほ場外に搬出して、焼却するなど、適切に処分する。
- 本病に対して登録のある薬剤があるので散布する（表参照）。農薬を使用する際は、必ず農薬ラベルの記載事項を確認し使用する。

4 その他

本病が疑われる症状を見つけた場合は、農業試験場病害虫防除部または最寄りの地域農業農村支援センターに連絡する。



図1 罹病葉の黄斑



図2 病斑上に形成された霜状の菌そう

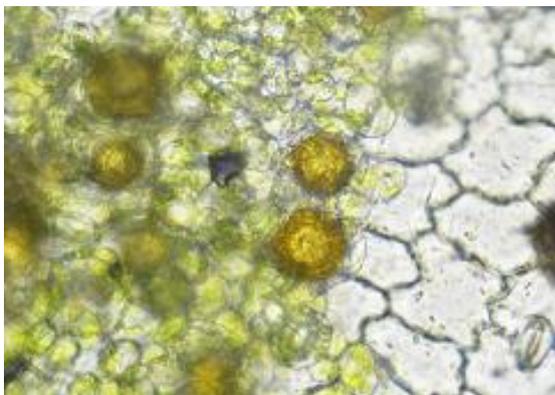


図3 病葉組織内に形成された卵胞子



図4 罹病し著しく生育不良となった株

※ 図2は「農林水産省名古屋植物防疫所」写真原図提供。写真の無断転載を禁ずる。
 図3は「長野県野菜花き試験場」提供。

表 カーネーションベと病に対する登録農薬（令和7年6月1日現在）

| 農薬名 | 希釈倍数 | 散布液量 | 使用時期 | 使用回数 | 使用方法 | FRAC |
|------------|----------|--------------|------|------|------|------|
| ジマンダイセン水和剤 | 400～600倍 | 100～300L/10a | — | 8回以内 | 散布 | M3 |
| エムダイファー水和剤 | 400～650倍 | 100～300L/10a | 発病初期 | 8回以内 | 散布 | M3 |

(問合せ先)

担 当 病害虫防除部
 電 話 026-248-6471
 ファクシミリ 026-248-6473
 電子メール bojo@pref.nagano.lg.jp